

大学生による小・中学生へのスポーツ指導に関する研究 ～本学の学生を対象に～

石原 直明 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)

指導教員 新井 博

キーワード：学生 スポーツ指導者 意識調査

1. 緒言

本研究では、本学の小・中学生にスポーツ指導を行っている学生を対象にスポーツを指導するに当たって考えていることを調査した。この調査により、スポーツ指導を行っている学生はどのようなことを考えながら指導にあたっているのか。学生が指導する上でのメリットをどう考えているかを調査する。このような調査から、今後の学生がスポーツ指導を行うという点で役に立つものができると考え、取り組んだ。

2. 研究方法

本学の小・中学生へのスポーツ指導を行っている学生 54 名を対象にアンケート調査を実施する。

【調査期間】

2010 年 11 月 25 日～2010 年 12 月 14 日

3. 結果と考察

年輩の指導者に比べ、大学生指導者のメリットとして子どもと一緒に動くことができる。子どもにとって、指導者と一緒にできるという事はプラスの要素が大きく、手本となるプレーを見せる事は子どもへの大きな刺激になり、憧れにもなると考えられる。

小学生の指導者では子どもをどのようにして話を聞かせるか、スクール中に遊ばないようにするかという点で苦労している学生が多かった。話を聞かせる体勢を作り、安全管理に注意して行うことが、楽しくスポーツを行う環境作りになると考えられる。高学年

に上がると、楽しませることにプラス技術指導も多くなり、より専門的な練習に移行している。

中学生になると、身体の発達に合わせてより気を付けて練習を行う必要性が出てきている。技術指導もより細かくなってきていた。練習以外の面ではコミュニケーションをとっても大切に考えている学生が多く、子どもとの関係作りが重要になってくると、この調査から分かった。

4. まとめ

大学生指導者は年輩の指導者に対して指導経験が浅いというデメリットを子どもと一緒に動き、多くのコミュニケーションを取る事で経験不足を補っている。

小学生の低学年指導者、小学生の高学年指導者、中学生指導者全てで共通して見られていたことは「子どもをいかに楽しませられるか」という部分であり、子どもの満足度≒指導者の満足度になっていると考えられる。

5. 参考文献

スポーツ指導者の意識 (PDF)

http://www.edu.city.kyoto.jp/sogokyoiku/kenkyu/outlines/h17/pdf/505_01.pdf#search

スポーツボランティアをしている人の意識 (PDF)

<http://www1.tcue.ac.jp/home1/c-gakkai/ikanshi/ronbun3-3/takahashi.pdf#search>